

令和3年度（第27期）にいがた市民大学

「つながりから見えるアジアの姿と未来」公開講座

「総論1 東アジアの安全保障 日本を取り巻く安全保障環境の展望と環日本海経済圏の可能性」 実施概要

【会場】 新潟市生涯学習センター(クロスパルにいがた) 映像ホール
(新潟市中央区礎町通3ノ町2086番地)

【日時】 令和3年10月16日(土) 午後2時~4時

【講師】 山口 昇 さん(国際大学 国際関係学研究科 教授)

【参加者】 計 37名 (内訳)・講座受講者 22名 ・一般参加者 15名

【内容】

脱コロナ世界の展望、米中確執の影響、朝鮮半島情勢の将来など、国際情勢の変化と新潟県の目前に広がる環日本海経済圏の可能性についてお話しいただきました。

前半は、日本を取り巻く安全保障環境について、各国の防衛費の変化や航空機の出動数、宇宙やサイバー領域における問題等を切り口に、豊富な資料・データをもとにお話しいただきました。

後半は、「『Unthinkable』を考える」というテーマで、一帯一路とインド太平洋を対比し、「インド洋」「南・中央アジア/中東/アフリカ」「東シナ海」「南シナ海」の4地域の地政学的な特徴と日本の戦略についてお話しいただきました。

陸上自衛隊研究本部長や内閣官房参与を歴任されるなど、自らの体験をもとにしたお話が多く、参加者からのたくさんの質問にも一つ一つ丁寧にお答えいただきました。



令和3年度（第27期）にいがた市民大学

「ヒトにも自然にもやさしい街中の移動を考えよう」公開講座

「車社会：エネルギーと生物の時間から考え直す」 実施概要

- 【会場】 新潟市生涯学習センター(クロスパルにいがた) 映像ホール
(新潟市中央区礎町通3ノ町2086番地)
- 【日時】 令和3年9月17日(金) 午後7時～9時
- 【講師】 本川 達雄 さん(東京工業大学 名誉教授)
- 【参加者】 計 43名 (内訳)・講座受講者 31名 ・一般参加者 12名

【内容】

車などのエネルギーを使い極度に速くなった現代社会の問題点について、生物学、哲学など様々な角度からお話いただきました。

1kgの体重を1m運ぶのに必要なエネルギーである運搬コストは、体を持ち上げるコストが一番大きく影響します。自転車は体を持ち上げる必要がなく、圧倒的にコストパフォーマンスが良いとのことでした。

また、陸上を移動する動物の多くは足を前後・上下に動かして進みますが、慣性の法則や重力によりムダが発生します。このムダをなくすには足を車輪のようにすれば良いのですが、凸凹した地面を走るのに不適なため、車輪で進む動物は皆無です。

広く、硬く、段差がなく、溝がない等の要件を満たす場所は自然界にはほとんどありませんが、日本最大の沖積平野であり平坦な新潟は、車輪にうってつけの場所であるとのことでした。

現代人は車やコンピューターなどのエネルギーを使って時間を速め、社会の時間も速めていますが、ヒトの体の時間は昔と変わっていないため、体の時間が社会の時間に追いつけず、ストレスになっています。

また、時間には「純粋な今(物理の今)」と「感じる今(生きる今)」があり、自分が行為をすることで「感じる今」が存在しますが、現代人は機械のオペレーターとして過ごす時間ばかりで自分ではほぼ何もしておらず、今が空虚になりがちです。

これに対し自転車は自分でエネルギーを使う機械で、自分の手足・感覚器官の延長であり、行為そのものに充実感が得られるということです。

講義の合い間には講師が自作の歌を歌われるなど、終始、和やかに講義が進みました。

